

# よみがえれ心のふるさと天願川

—— 水を追いつづけて ——

具志川市婦人連合会いどぼた生活学校

運営委員長 佐々木 末子

## まずい水はイヤ!!

主婦の特性と創意を發揮し、地域課題を解決しようと、1986年、いどぼた生活学校は発足しました。具志川市は南北に細長い沖縄県の中央部に位置し、人口5万5000人。農業と商業の調和のとれた田園都市をめざしています。年々、都市化へと様相を変えている当市の身近な課題は『水』。近隣市町村を含む婦人会の集まりではよく、水への苦情が話題になっていました。やかんの底には石灰が固まり「カルキ」の臭いが残る。お茶やごはんもまずく、生水を警戒して煮沸かした水を飲むというのが生活の中に習慣ずいています。そこで『家族の健康管理と快適な家庭生活の担い手として、日常的に深い関わりをもつ水が質の良い安全なおいしい水であるか婦人の立場から多面的に考えたい』を趣旨に活動を始めました。

資料も何もないいづくしからのスタートは探険家気分です。思うことは何でも話し合い、常に共通意識をもち合うようにすること。歩いて、見て考える、ひらめき、思いつきの感性も大事にすること等々を確認し合いました。

さっそく私たちの生活用水はどこからと水源地ツアーを企画。市内を細々と流れる流路12キロの天願川が取水源であることを知り河川の現状調査にポイントをおくことにしました。幼い頃、満々とした水をたたえ、唇が紫色にかわるまで泳ぎ、腕白たちの心と身体をきたえた川。洗濯や野菜の洗い場として又、野良仕事の帰りにフナやカニを釣ったり、川と人が織りなす世界がありました。中流の橋の下は透き通った水が流れ、めだかが群をなし、素足にふれる川砂に心地良さを感じたものです。川の周辺には大根、イモ、サトウキビ畑、水田があり、トンボや蝶々がとびかい、のどかな風情がありました。

## 流域環境SOS

水道が普及し、蛇口をひねるだけの便利な生活になれてしまった私たちは台所までの水

路や、家庭からの流れ先を知ることなく安閑として暮らしてきました。木が切られ、山が裂かれ、赤土の肌はむきだし、農地改良事業で水田はうめられ、「文化生活」を誇示するかのようカラフルな家が建ち並ぶ、その影で天願川はか細く息絶え絶えに呻いています。これまでの溝は三面張り排水溝へ変わり、家庭の汚水は浄化されることなく川へ注ぎこむ。大小の支流を通り、どす黒く、あわをたてて天願川へのみこまれ、ポンプ場へと流れる。のび放題のやぶにかくれて、洗剤の泡とゴミの山にうもれ、8割近い市民の排水、畜舎汚水をうけて窒息寸前の悲惨な状況になってしまいました。

## 足元の生活を見直そう

①便利さを求める生活で大事な水源地を汚してしまった。②大量の塩素殺菌のため、水がまずくなるのは当然。③自ら汚した地元の川を廃棄して北部ダムの水をのませろでは勝手すぎる。④資源の乏しい沖縄で一滴の水もムダにすることはできない。

むつかしい理屈はわからないが、実際に歩いて、目で身体で受けとめるショックと痛みを原動力に足元の生活を見直す運動の継続と拡大が改めて確認された。おいしい水を飲むために住民としての努力、行政がやるべき施策等、連携をとりながら、持場、立場を生かした活動がはじまりました。

急速な水道普及で次第に市民から忘れられていった天願川を記憶にひきもどす啓発活動が重要となり、27行政区に対してアンケートを実施。90%近い高回収で確かな手応えを感じました。全戸配布の行政広報誌に「天願川シリーズ」を連載。「湧水めぐり」では各地域の自治会長、古老からの聞き取り調査を行ない、新聞やテレビ報道などによって気運も高まり、湧水復活へ明るいきざしが見えました。貴重な水資源として行政の対応が必要となっております（資料1）。

又、おびただしい洗剤の泡を何とかしようと、各家庭でのせっけん使用運動を展開。廃食油を流さないこと、大量に廃油がでた場合はせっけんへ再生する講習会が各地で行なわれました。さすがに主婦の関心は高く、全行政区で1～3巡ほどの講習会がもたれております。せっけん作りは学校で地域であるいは大小のグループでと、ひっきりなしに行なわれ、市内外の反響が大きく行政に作業所設置を要請することになりました。2年前に念願がかない、作業所（敷地15坪、プレハブ8坪）が設置され、ステーションができたことにより、活動がしやすく、視察、実習の方が絶え間なく訪れております。又、各イベントの機

会には、常に水辺環境を考えようということで、せっけんを行政に買い取って頂き、市民に配布しております。今年は県行政もせっけんを買い取り、消費生活の見直しをと啓発に力をいれはじめました。

## せっけんの輪

市内外のネットワークが広がり、うれしい悲鳴をあげています。地元の高校の家庭クラブでは、せっけんと環境問題を取りあげました。熱心に話しをメモし、せっけんの実習では最初おっかなびっくりながら上手に作れるようになりました。次の時代を担う若い力が生活を見つめ始めていることに感動と同時にすばらしい後継者たちの出現を喜んでいます。この実習を機に、いろいろ学習の成果を今年の家家庭クラブ県大会で発表し、見事第2位の快挙までやってくれました（資料2）。次年度に向けてすでに県公害対策課よりせっけん5000個の見積り依頼がきており、多忙さが予想されます。行政も住民団体も主体性を尊重し合いながら、河川浄化への啓発普及活動を推進、その成果で昨年、天願川は建設省から『ふるさとの川モデル』に認定されました。河川浄化活動は一人ひとりがまちづくりを考える気力も起こしました。そして、それぞれの団体も連携をとり合い、より強力な広がりをと、団体協議会（市婦人連合会、市青年連合会、市商工会、婦人部、青年部、市青年会議所）が結成されました。会が呼びかけた天願川大清掃には今年1200人も市民が参加しております。

6年前は30名で始めた水生生物調査も今では常に100名の親子が参加。夏休みの自由研究としても定着しています。

いじめぬかれた天願川も市民の反省と努力を少しずつ認めはじめています。流域の養豚業者は汚水処理に気を配るようになり、大清掃のアクションにゴミすて場ではない意識が市民に芽ばえ、清流へのロマンを語る人々がでてきたこと。にごりのなくなった水辺に、トビケラ、カワナ、ウズムシ、サワガニが帰ってきました。種類も量も多くなりました（資料3）。環境白書によっても勇気づけられる好結果がでております（資料4）。しかし、まだ、清流復活にはかなりの努力が必要です。市民の文化生活のバロメーターとして片時も水辺から目をそらすことはできません。これからの子どもたちが川遊びの思い出を語れない大人にならないためにも！

# 天願川に清流を!!

謹啓、暑中御見舞い申し上げます。

さて、国の故郷の川モデル河川に認定されて以来、恒例になりました「天願川大清掃」が今年も下記の要領で実施されることになりました。

将来市の顔となるであろう天願川をみんなできれいにしましょう。

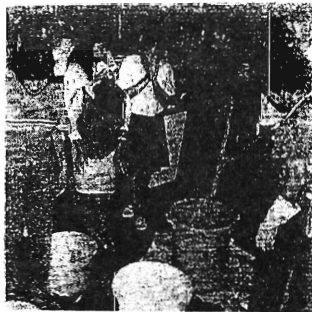
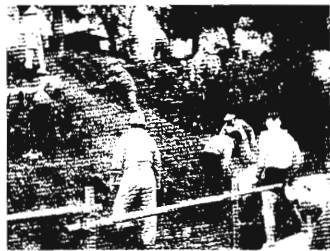
市民の皆さん、積極的なご参加をお願いします。

## 実施要領

- ◎日時 平成3年8月11日(日) 午前9時～12時
- ◎集合場所 天願公民館前(大清掃場所、去年と同じ蛇行部分(旧河川))
- ◎作業内容 川のゴミ除去、草刈り作業  
カマ、電動草刈機等 ※各自長靴、手袋を着用下さい
- ◎主催 具志川市団体連絡協議会(具志川市青年会議所、市婦人連合会、市商工会青年部、市商工会婦人部、市青年連合会、)
- ◎後援 具志川市役所、具志川市心豊かなふるさとづくり推進協議会、沖縄県中部土木事務所
- ◎協力団体 ライオンズクラブ、市商工会、市老人クラブ連合会、具志川電業会、市給水工事指定店組合、市建設業組合、琉球新報、沖縄タイムス、沖縄テレビ、琉球放送、市農協、市PTA連合会、各自治会、ベプシコーラ、コココーラ



天願川大清掃デー



具志川市前原高校生徒が、環境保護活動の一環として、天願川大清掃に参加した。生徒たちは、ゴミの回収や、草刈り作業など、積極的に参加した。また、川の水質調査も行われ、環境意識の高まりが伺える。

## 「環境保護」私たちも

前原高校 せつけん作りを体験

具志川市

【具志川】具志川市で天願川大清掃活動に参加した前原高校生徒は、川の水質調査や、ゴミの回収など、積極的に参加した。また、川の水質調査も行われ、環境意識の高まりが伺える。

この日は市中央公民館の調理室、いっしょの運営委員の指導を受け、カセインと卵を混ぜてかきはん、型に入れて成型を体験した。生徒は、環境保護活動の一環として、天願川大清掃に参加した。また、川の水質調査も行われ、環境意識の高まりが伺える。

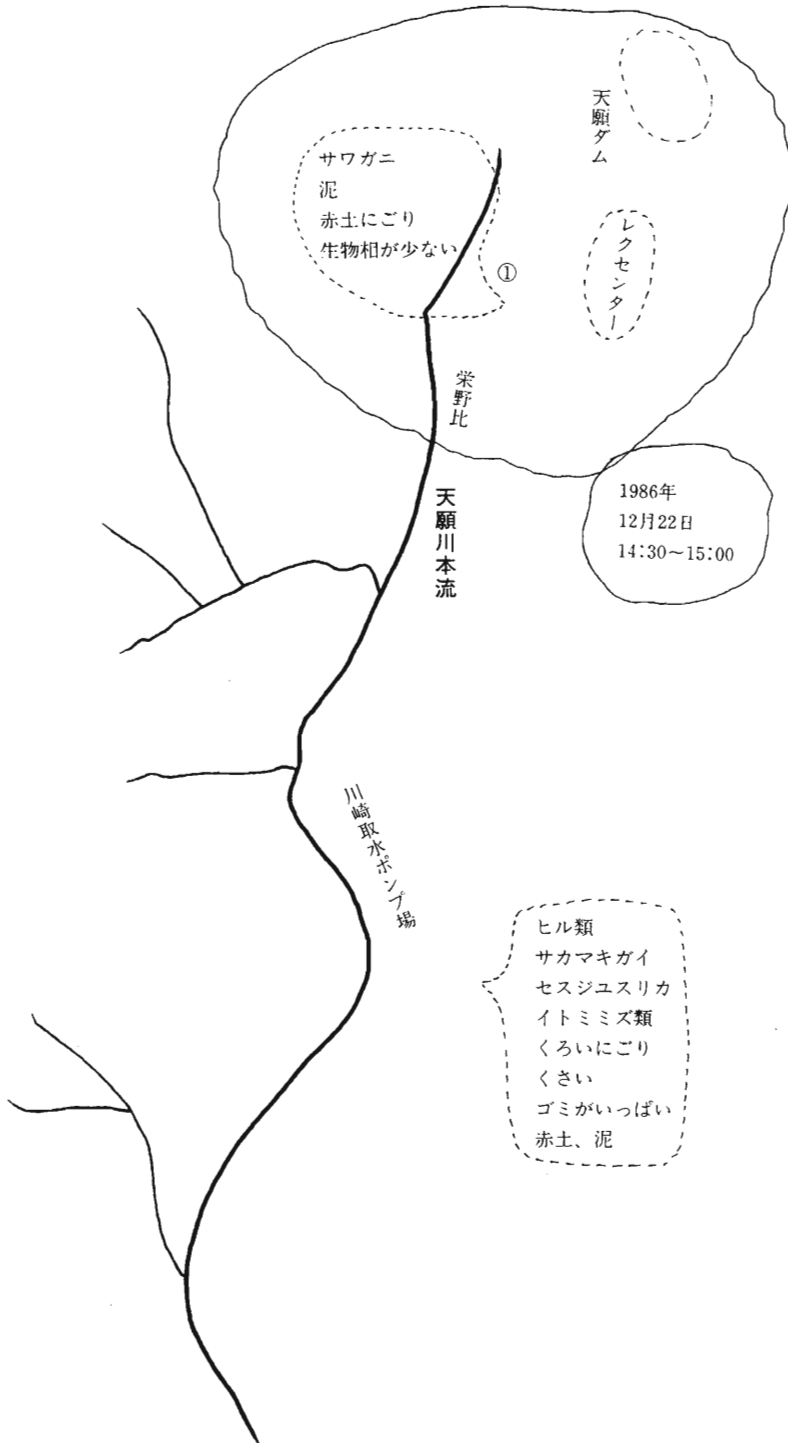


湧水調査 各地に散在する湧水は、先祖代々から子孫の命を育み水の恩恵を忘れないよう、聖地として、節目には感謝の拝みが現在も行なわれている。



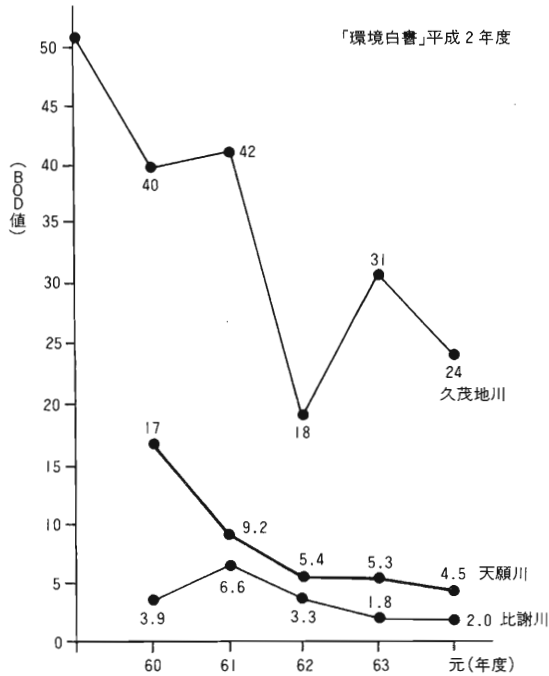
地元、前原高校の家庭クラブ（50名）の皆さんに、川と生活のかかわりを説明、廃食用油利用のせっけん作りも実習。

同一ポイントでの生物相の変化（1986年12月22日）





## BOD（生物化学的酸素要求量）値にみる河川汚染の変遷



### 参 考 1991年8月16日 琉球新報「レキオ」より

もう一つ、極めつけの例を出す  
と、具志川市の天願川、このグラ  
フでも急激な下降線にギョッと  
してしまふほどの変化を示して  
いる。天願川へ最初に手をさし  
のべたのは、婦人会の皆さんで、取水も  
行われている地元の川がどうなっ  
ているのか、目と足で確かめよう  
と、上流から下流までくまなく見  
て回りショックを受けたという。  
ここまで汚れた川を子供たちに受  
けつがせるわけにはいかないと、  
母ちゃんたちは立ち上がったので  
ある。無敵の母ちゃんパワーは、台  
所からの強力な取り組みを發揮す  
る。川の大きな負担となる廃油の  
たれ流しを止め、それを手作り石  
けんに作り変える運動を展開し

た。婦人会の活動は、市内の他の組  
織を動かし、行政と連動した大き  
なうねりとなって、天願川を変え  
てきたのである。

沖繩の川は、小さくて汚れやす  
く扱いにくい川だと言われるが、  
裏を返せば、結果が出やすい川だ  
とも言える。人が努力した分の答  
えを返してくれる、とても人間く  
さい川である。だから、どうせムダ  
さ、という水くさい関係ではな  
く、川色を見ながら対話してみれ  
ば、なかなか好きになれる素直な  
ヤツだと私は思っている。

(沖繩テレビ報道局)

寺田麗子さんの「女性にとっての水問題」  
は毎月第3週に掲載します。